

(平成19年9月分)

部 門	市況の概要
野 菜	<p>9月期の野菜の入荷状況については、全国的に8月の猛暑に続き記録的な残暑となったことから、高温障害、生育不良などの被害が発生した。とりわけ、今後、秋冬野菜の主役となる大根、白菜、レタス等では、猛暑の影響が顕著に見られた。結果として、入荷量は前年同期を7%下回った。</p> <p>価格は、入荷量が少ないながら、残暑の影響から野菜全体の消費が伸びず、結果として、前年同期を3%下回った。</p> <p>品目別には、長大根、レタス、ほうれんそうが入荷減の単価高で推移し、白菜、きゅうりが入荷減ながら単価安であった。さらに、西洋ニンジン、キャベツ、なす、松茸は入荷増の単価安で推移した。とまと、ピーマン、玉ねぎは、入荷は前年並みであったが、単価安となった。</p> <p>根菜類は、入荷が14%減少し、価格は5%安となった。 葉菜類は、入荷が10%減少し、価格は前年並みとなった。 果菜類は、入荷が3%減少し、価格は7%安となった。 土物類は、入荷は前年並みで、価格は9%安となった。</p>
果 実	<p>9月期の果実の入荷状況は、残暑の影響から着色の遅れが際立ち、秋本番を迎えるほとんどの品目で入荷量が減少し、入荷量は前年同期を10%下回った。</p> <p>価格は、入荷減により前年同期を4%上回った。</p> <p>柑橘類は、入荷が11%増加し、価格は7%安となった。 りんごは、入荷・価格ともに前年並みとなった。 梨は、入荷が14%減少し、価格は5%高となった。 柿は、入荷が30%減少し、価格は14%高となった。 ぶどうは、入荷が16%減少し、価格は11%高となった。 メロンは、入荷が16%減少し、価格は前年並みとなった。</p>

主要品目（野菜）	市況の概況
<p>【根菜類】 長大根</p>	<p>北海道を中心とする入荷。夏場の高温・多雨の影響から腐りの発生等もあり，一部の圃場では廃棄も見られた。結果として，前年同期を21%下回った。</p> <p>価格は，入荷減に加えて，加工業務関係での販売環境が良く，結果として，前年同期を7%上回った。</p>
<p>洋人参</p>	<p>北海道を中心とする入荷。上旬は2L，Lサイズ中心に順調な入荷となり，中旬以降は天候不良の影響もあって入荷は若干減少した。結果として，前年同期を7%上回った。</p> <p>価格は，入荷増によって，前年同期を29%下回った。</p>
<p>【葉菜類】 はくさい</p>	<p>長野県を中心に一部北海道からの入荷。8月の長期化した高温早魃の影響を受けて生育の遅れが見られ，不安定な入荷状況となった。結果的に，前年同期を20%下回った。</p> <p>価格は，入荷量は少ないながら，異常な高温の中では，品目の特性上，一般消費・加工業務ともに荷動きが悪く，また，昨年が極めて高値であったことから，結果的に前年同期を17%下回った。</p>
<p>キャベツ</p>	<p>群馬県，長野県を主力に北海道からの入荷。各産地ともに高温早魃の影響から生育が遅れていたが，台風の降雨により中旬以降回復し，大玉傾向となったことから結果的に，前年同期を10%上回った。</p> <p>価格は，入荷増に加え，前年が高値推移であったことから，結果的に前年同期を22%下回った。</p>
<p>ほうれんそう</p>	<p>岐阜県を中心に北海道，滋賀県からの入荷。各産地ともに高温早魃の影響を受け，不安定な入荷となった。結果的に前年同期を15%下回った。</p> <p>価格は，入荷減によって，前年同期を4%上回った。</p>
<p>レタス</p>	<p>長野県を中心に一部北海道からの入荷。7月の低温・日照不足と8月の長期化した高温早魃という極端な気象条件の影響を受けたため，生育は遅れた。上旬になって台風の降雨により回復傾向となったが結果的に，前年同期を12%下回った。</p> <p>価格は，入荷減に加えて一般消費・加工業務ともに荷動きが良好で，結果的に前年同期を24%上回った。</p>

<p>【果菜類】 きゅうり</p>	<p>福島県，北海道，京都府を中心とする入荷。各産地ともに高温障害が発生し，生育遅れや下位等級の発声も多く，結果的に入荷量は，前年同期を7%下回った。 価格は，入荷減ながら，品質が悪く前年同期を9%下回った。</p>
<p>なす</p>	<p>京都府を中心に徳島県からの入荷。8月以降の高温により豊作傾向となったため，順調な入荷となった。結果的には前年同期を10%上回った。 価格は，入荷増に加えて，高温の影響から品質の低下が懸念され，消費がやや低迷した。結果として，前年同期を17%下回った。</p>
<p>トマト</p>	<p>岐阜県，北海道を中心に茨城県からの入荷。北海道は8月の高温により前進出荷となったことから，今月に入って減少してきた。また，岐阜県産，茨城県産は出荷要請を行い，集荷を図った。結果的に前年並みとなった。 価格は，入荷が不安定な状況ながら，前年が高値推移であったこともあって，前年同期を11%下回った。</p>
<p>ピーマン</p>	<p>大分県，兵庫県，茨城県を中心に入荷。8月の高温による天候不順によって腐敗果等の発生が多く，入荷量は不安定となったが，全体の入荷量としては前年並みとなった。 価格は，品質面での問題と，昨年が高値推移であったことから，前年同期を10%下回った。</p>
<p>【土物類】 ばれいしょ (メーク含む)</p>	<p>北海道を中心に青森県の残量が入荷。北海道の栽培面積の拡大に加え，生育も順調となり前年同期を5%上回った。 価格は，入荷増に加えて秀品の割合が低く，また，高温による消費低迷もあって，前年同期を29%下回る結果となった。</p>
<p>たまねぎ</p>	<p>兵庫県を中心に兵庫県からの入荷。作柄は良好で順調な入荷となった。全体としては前年並みとなった。 価格は，高温による消費低迷もあって，前年同期を21%下回る結果となった。</p>
<p>まつたけ</p>	<p>中国産を中心の入荷。昨年度の残留農薬問題から引続き全量が検査対象となっており，入荷量は前年から少なくなっているものの，前年同期を5%上回った。 価格は，入荷量の増減の要因ではなく，最近の様々な中国産の安全性の問題に対する消費者の不安から消費が低迷し，前年同期を33%下回った。</p>

主要品目（果実）	市況の概況
極早生みかん	<p>宮崎県，福岡県を中心に和歌山県，佐賀県からの入荷。高温早魘の影響から小玉中心の入荷となったが，昨年が極端な入荷減であったことから，前年同期を41%上回った。</p> <p>価格は，入荷増ながら酸切れも良く，高値で推移した前年並みとなった。</p>
津 軽 （サン含む）	<p>青森県，長野県を中心に岩手県からの入荷。長野県の作柄がやや不良となり，他の産地は前年並みの入荷となったものの，結果的に前年同期を10%下回った。</p> <p>価格は，入荷減ながら，品質面での問題があり，前年並みとなった。</p>
豊水なし	<p>長野県を中心に富山県，鳥取県からの入荷。8月の猛暑に続き9月に入っても高温が続いたため，ヤケ果の発生があり，結果的に入荷量は，前年同期を19%下回った。</p> <p>価格は，入荷減によって前年同期を5%上回った。</p>
二十世紀なし	<p>鳥取県を中心に長野県，京都府からの入荷。高温・早魘の影響から正品率が低下し，切り上がりも早まったことから，全体の入荷量は前年同期を15%下回った。</p> <p>価格は，入荷減に加えて，大玉を中心に高値で推移し，全体としては前年同期を8%上回った。</p>
刀根かき	<p>和歌山を中心とする入荷。9月入っても高温・早魘が続き，夜温が下らない中で，色つきが非常に悪く，入荷量は前年同期を60%下回った。</p> <p>価格は，著しい入荷減によって，前年同期を22%上回った。</p>
巨 峰	<p>長野県を中心に山梨県からの入荷。高温障害として着色不良の発生があり，入荷数量は減少し，前年同期を17%下回った。</p> <p>価格は，入荷減に加えて，競合品目も少なく前年同期を10%上回った。</p>
アールス	<p>静岡県を中心に茨城県，愛知県，石川県，長野県からの入荷。各産地ともに作付けが減少しており，全体の入荷量は前年同期を22%下回った。</p> <p>価格は，入荷減ながら，下位等級の発生が多く前年並みとなった。</p>
く り	<p>愛媛県を中心に京都府からの入荷。8月の高温早魘により小玉傾向で，生育も悪く入荷量は前年同期を18%下回った。</p> <p>価格は，入荷減により前年同期を13%上回った。</p>